

1 ♪研究テーマ 小学校歌唱指導における声を合わせて楽しむ力を育てるための指導法の工夫  
～「ボイスチャレンジ」を取り入れた学習を通して～

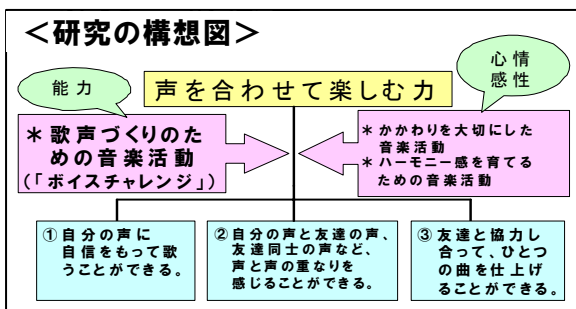
2 ♪はじめに

音楽活動の中で、歌唱は、みんなで聴き合い、協力し合うことが必要である。特に、友達とパートを分け合い、相手の声に耳を傾け、一緒にハーモニーをつくり上げていく合唱は、人間形成において大切な役割が多い。だが、私の歌唱指導を振り返ると、教師主導に陥ってしまうという傾向にあった。また、歌うことに抵抗を感じている児童もあり、実態調査から、歌唱技能への苦手意識、自分の表現を受け入れてもらえないのではないかと、という心情面での不安があることが分かった。そこで、歌唱指導を進めるにあたって、友達とかかわり合い、互いのよさを認めながら歌唱や合唱技能を育てる音楽活動の研究をしたいと考えた。

3 ♪研究目的

- ・友達とかかわり合い、互いのよさを認めながら、歌唱や合唱技能を育てる音楽活動を研究する。
- ・考案した音楽活動を学習の中に効果的に位置付け、子どもたちの声を合わせて楽しむ力を育てる。

《仮説》 かかわりを大切にした音楽活動、「ボイスチャレンジ」【自作】、ハーモニー感を育てる活動を取り入れた歌唱指導を積み重ねていけば、声を合わせて楽しむ力が育つであろう。



「声を合わせて楽しむ力」を左図の①②③と、とらえる。

能力面と心情面とは密接な関係があり、互いに関連させながら音楽活動を進めることで、歌声も人間関係もより良い相乗効果を生むと考えられる。つまり、技術面への自信と認め合う集団の支えが両輪となって働けば、「声を合わせて楽しむ力」が育つものと考えられる。

4 ♪研究内容

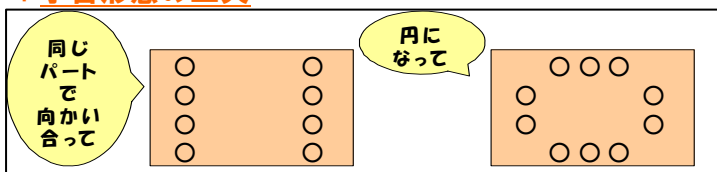
(1) かかわりを大切にした音楽活動 (ねらい: 安心して表現できる雰囲気づくり、仲間づくりをする。)

\*音楽遊びの工夫 一例 ※【 】ねらい

♪肩たたきリズム → [リズム・リラックス]  
鉄腕アトムのメロディーに合わせて、肩たたきをする。「8・8・4・4・2・2・1 (パン)」と厳密に手拍子を入れる。フレーズごとに向きを変え、掛け声を出すと、盛り上がる。

♪テレパシー → [リズム・集中・相手意識]  
全員で輪になる。一人の児童が送りたい相手に、手拍子で4拍の好きなリズムを送る。アイコンタクトで送り、声に出して伝えてはいけない。送られた児童は、次の児童に同じように送る。

\*学習形態の工夫



・同じパートで向かい合ったり、円になつたりして歌う。声がより響く体育館の練習も取り入れる。

\*グループ学習手引きの工夫

番号	達成	ブレイン レッスン 方法
レッスン①	◎	○ 旋律に合わせて、ゆっくりと高音部だけを歌う。 (1番の歌詞で)
レッスン②		○ 伴奏に合わせて、ゆっくりと高音部だけを歌う。 (1番の歌詞で)

・児童だけで練習できる「段階的に練習するための学習カード」を作成。ステップ方式の練習法。

(2) 「ボイスチャレンジ」カードの作成 (ねらい: やわらかく響きのある歌声づくりをする。)

一例 ※【 】ねらい

♪オスッ! 3秒 → [姿勢: 背筋を伸ばす。]  
肩幅と同じ程度、足を広げる。空手の形のように、両腕を大きく体の後ろに引く。そのまま、3秒保ち、ゆっくり腕を下ろす。掛け声は、「オスッ! 1・2・3」

♪荷物をエイツ! → [腹筋: 腹式呼吸の練習をする。]  
肩幅と同じ程度、両足を開く。両手で重い荷物を持ち上げるようにして、少し腰を落として歌う。実際に、ピアノを持ち上げるようにして、歌うとよい。

(3) ハーモニー感を育てる音楽活動 (ねらい：輪唱や同じコードで編成された曲を通して、  
\*輪唱 一例 ハーモニー感を育てる。)

- ♪こんには輪唱(カデンツ)
- ♪雪のおどり
- ♪蚊のカノン
- ♪一年中の歌
- ♪ハレルヤ

(1)(2)(3)の活動は、2人、3人・・・グループ、学級全員とかかわり方を変化させる。

(4) 検証授業の概要

○安田小学校6年生(16名)  
○歌唱教材での検証授業(7時間)【10/23~11/24】

9月	10月	11月	12月
音楽遊び 「ボイスチャレンジ」 輪唱			

継続した音楽活動 (10~15分)  
6月~7月  
9月~12月  
合計 31回

○題材  
→重なり合う音の美しさを味わおう  
「バーム・バーム」

7時間

検証方法  
・事後アンケート  
・学習カード  
・授業ビデオ

「バーム・バーム」・・・7時間の計画

《事前 9月》ボイスチェック	
時	主な活動
1	鑑賞教材
2	主旋律の練習
3	高・低音部の練習
4	各パート合わせ
5	歌い方の工夫
6	グループ発表
7	全員で練習
ミニ発表会(4年生に向けて)	
《事後 1月》ボイスチェック	

\*1時間の学習の流れ

導入	かかわりを大切にした音楽遊び かかわり合う音の美しさを味わおう *選ぶ「ボイスチャレンジ」	約10分
展開	グループ練習・全体練習で 表現の工夫をする。	約5分
評価	学習カードによる自己評価	

♪選ぶ「ボイスチャレンジ」  
教師も子どもも選ぶ。

(5) 仮説の検証と考察

- ①かかわりを大切にした音楽活動
- ②「ボイスチャレンジ」の実践
- ③ハーモニー感を育てる音楽活動 (輪唱)

班の仲間と協力して、「バーム・バーム」の合奏と響きのあるハーモニーに近づくことができました。【09.11.30】実施

班練習を通して、響きのある合唱になっていると感じている。

「ボイスチャレンジ」をしてやわらかく響きのある歌声に少しでも近づきましたか。【09.11.30】実施

少しずつ響きのある歌声に近づいている。

【項目別分析】

項目	1学期	2学期
期待物のある活動	1. 歌ついでにダンス	2. 歌ついでにダンス
仲間と協力した活動	3. 歌ついでにダンス	4. 歌ついでにダンス
児童が多く選択した活動	5. 歌ついでにダンス	6. 歌ついでにダンス
教師が選んだ活動	7. スタートアップ	8. スタートアップ
高学年にはやや不向きな活動	9. ランクアップ	10. ランクアップ
高学年にはやや不向きな活動	11. トランス	12. トランス
高学年にはやや不向きな活動	13. トランス	14. トランス
高学年にはやや不向きな活動	15. トランス	16. トランス
高学年にはやや不向きな活動	17. トランス	18. トランス
高学年にはやや不向きな活動	19. トランス	20. トランス
高学年にはやや不向きな活動	21. トランス	22. トランス
高学年にはやや不向きな活動	23. トランス	24. トランス
高学年にはやや不向きな活動	25. トランス	26. トランス
高学年にはやや不向きな活動	27. トランス	28. トランス
高学年にはやや不向きな活動	29. トランス	30. トランス
高学年にはやや不向きな活動	31. トランス	32. トランス
高学年にはやや不向きな活動	33. トランス	34. トランス
高学年にはやや不向きな活動	35. トランス	36. トランス
高学年にはやや不向きな活動	37. トランス	38. トランス
高学年にはやや不向きな活動	39. トランス	40. トランス
高学年にはやや不向きな活動	41. トランス	42. トランス
高学年にはやや不向きな活動	43. トランス	44. トランス
高学年にはやや不向きな活動	45. トランス	46. トランス
高学年にはやや不向きな活動	47. トランス	48. トランス
高学年にはやや不向きな活動	49. トランス	50. トランス
高学年にはやや不向きな活動	51. トランス	52. トランス
高学年にはやや不向きな活動	53. トランス	54. トランス
高学年にはやや不向きな活動	55. トランス	56. トランス
高学年にはやや不向きな活動	57. トランス	58. トランス
高学年にはやや不向きな活動	59. トランス	60. トランス
高学年にはやや不向きな活動	61. トランス	62. トランス
高学年にはやや不向きな活動	63. トランス	64. トランス
高学年にはやや不向きな活動	65. トランス	66. トランス
高学年にはやや不向きな活動	67. トランス	68. トランス
高学年にはやや不向きな活動	69. トランス	70. トランス
高学年にはやや不向きな活動	71. トランス	72. トランス
高学年にはやや不向きな活動	73. トランス	74. トランス
高学年にはやや不向きな活動	75. トランス	76. トランス
高学年にはやや不向きな活動	77. トランス	78. トランス
高学年にはやや不向きな活動	79. トランス	80. トランス
高学年にはやや不向きな活動	81. トランス	82. トランス
高学年にはやや不向きな活動	83. トランス	84. トランス
高学年にはやや不向きな活動	85. トランス	86. トランス
高学年にはやや不向きな活動	87. トランス	88. トランス
高学年にはやや不向きな活動	89. トランス	90. トランス
高学年にはやや不向きな活動	91. トランス	92. トランス
高学年にはやや不向きな活動	93. トランス	94. トランス
高学年にはやや不向きな活動	95. トランス	96. トランス
高学年にはやや不向きな活動	97. トランス	98. トランス
高学年にはやや不向きな活動	99. トランス	100. トランス

ねらいをもって、活動を選ぶことができたが、見直しも必要。

友達の声をよく聞くようになり、声と声の重なりを感じるようになった。

声と声を重ねる活動を通して、他パートの声を聴こうとする意識が出た。

(6) 「声を合わせて楽しむ力」についての分析

①自分の声に自信をもって歌うことができる。

\*実施日 事前.. 5/21  
1学期.. 7/2  
2学期.. 11/30

\*グラフの見方  
A できた(思った)  
B どちらかといえばできた(思った)  
C どちらかといえばできなかった(思わなかった)  
D できなかった(思わなかった)

友達から歌声を誉めてもらうことで、自信につながっている。

②自分の声と友達の声、友達同士の声など、声と声の重なりを感じるようになる。

友達の声をよく聴くようになり、声と声の重なりを感じるようになった。

③友達と協力し合って、ひとつの曲を仕上げるようになる。

(声がかみあがり、完成が楽しくなりました) 友達とつくり上げる喜びを感じている。

- 5 成果
  - ①かかわりを大切にした音楽活動 →互いの活動や歌声について認め合う姿があらわれてきた。
  - ②「ボイスチャレンジ」→児童が活動を選ぶことで、意欲的に継続することができた。
  - ③ハーモニー感を育てる音楽活動(輪唱等)→友達の声を聴き合おうとする意識が出てきた。

- 6 今後の課題
  - ①かかわりを大切にした音楽活動 →活動の種類を増やしたり、かかわり合う人数を変化させたりする。
  - ②「ボイスチャレンジ」→学年の実態に合わない活動を見直し、発達段階に応じて新しい活動を増やす。
  - ③ハーモニー感を育てる音楽活動(輪唱等)→変声期の児童にも対応できる教材選択をする。

7 おわりに  
年間50時間(高学年)という限られた音楽の時間に、育てたい子ども像を定め、明確なねらいをもって、継続して音楽活動に取り組むことが大事であると実感した。そして、友達とかかわり合いながら、「ハーモニーがくれた」という成功体験の積み重ねが、「声を合わせて楽しむ子ども」を育てていくと感じた。今後も授業を通して、実践を積み重ねていきたい。

お、ほかの人にも、おいてもらいたい  
てす!! が、よう木好ま